

へ愛が泣いた。

儂く――

美しく――

そして

彷徨う。

娘・妻・母……いまを生きる女性に捧げる  
和泉式部伝説―普遍の愛の世界。

# 式部物語

監督・脚本◆熊井 啓 原作◆秋元松代「かさぶた式部考」

奥田瑛二 / 原田美枝子 / 新橋耐子・杉本哲太・安孫子里香・根岸明美・内藤武敏 / 香川京子 / 岸 恵子

製作総指揮◆高丘孝昭 / 製作◆山口一信 / 撮影◆砂沢正夫 / 照明◆岩木保夫 / 美術◆木村威夫 / 音楽◆松村操三  
録音◆久保田幸雄 / 編集◆井上 浩 / 製作補◆大塚正弘 / 監督補◆原一男 / 衣裳協力◆千代田のきもの※



製作◆西友 / 配給◆東宝



「千利休―本覺坊遺文」に続き、名匠◆熊井 啓、奥田瑛二の名コンビが繰る愛の抒情詩。



奥田瑛二



原田美枝子



新橋耐子



杉本哲太



香川京子



岸 恵子

◆解説

昨年ベネチア国際映画祭で日本映画としては35年ぶりにサン・マルコ銀獅子賞を受賞した「千利休一本覺坊遺文」。それに続く、名匠・熊井啓、主演・奥田瑛二の黄金コンビ作品「式部物語」がいよいよ今秋、公開される。

原作は秋元松代の1969年度毎日芸術賞受賞戯曲『かさぶた式部考』。

今回は男優のみのキャスティングであった「千利休」とは違って変わり、岸恵子、香川京子ら邦画界のトップスター、そして若手実力派の原田美枝子、さらに新劇界の名女優・新橋耐子らが加わり、奥田瑛二扮する薄幸な青年をめぐり、華々しい演技を展開していく。

—事故によって人生を一変させてしまった青年の不幸を一体誰が背負うのか……。

女たちの熱い激情、孤独が交錯しながら、やがてそこから母、妻、そして女としての《愛》が浮かび上がる。さらに愛する者のために苛酷な人生選択を行なう女たちの姿の上に、この作品は日本古来のフォークロア“和泉式部巡遊伝説”をも重ねていく。

平安歌人・和泉式部が娘の死をはかなみ、全国をさすううち、旅の先々で人々の病をもらい受けたという伝説は日本各地に点在する。この伝説が女たちのドラマと二重映しになることにより、作品は時の永遠、そして人間の哀しさを謳いあげていく。

「式部物語」—この秋この作品が、観客一人ひとりに真の愛を問う感動作となることは間違いない。“熊井組”の不動のスタッフに囲まれ、完璧主義で知られる熊井演出のもと、キャストは入念なりハーサルを繰り返し、4月3日、九州阿蘇でクランク・イン。大自然の雄大な景観を取り入れながら、撮影は長野ロケをはさみ、につかつスタジオで行なわれ、6月上旬クランク・アップ。7月上旬完成予定。今秋東宝洋画系にて全国ロードショー公開。

◆物語

豊市は、事故により童心に帰ったままの男になってしまっていた。そのような豊市を、母・伊佐と妻・てるえが支えていたが、嫁・姑の仲には深い溝があった。

ある日、豊市の住む村に、“和泉教会”と名のる巡礼団が訪れる。巡礼団を率いているのは、神秘的な魅力をたたえた尼僧、智修尼。彼女は、信仰心ゆえに薬師如来の救済を受けた、いにしえの和泉式部の第68代目を自称していた。

そして、そのような智修尼に豊市は一瞬にして魅せられてしまう……。智修尼を仏と崇め慕う豊市の姿を目のあたりにした伊佐は、てるえの反対を押し切り、救いを求め巡礼の旅に加わる決心をするのであった。豊市と母・伊佐の旅が始まった。

和泉教会の本山、朝狩山。やがて豊市と智修尼はひそかに愛し合うようになる。二人の仲を嫉妬した、和泉教会の一員、夢之助に豊市は折檻の末、谷底に落とされてしまう。

奇蹟が起こった。事故の衝撃が逆に豊市を正気に戻したのだ。伊佐は喜び、この朗報をてるえに知らせようと山を下った。正気に戻った豊市は、智修尼に真剣に求愛をした。しかし冷たく拒絶され、再び豊市は正気を失ってしまう。

てるえと共に本山に戻った伊佐は、豊市の姿に深く失望する。失意のなか、伊佐はてるえに豊市を連れ帰り、もう一度、家庭を築くよう諭す。そして



さらには本山に残った。息子・豊市の不幸をその一身に引き受けようとする伊佐。その姿こそいにしえの和泉式部の姿であった……。



(スタッフ)

監督・脚本	熊井 啓	監督補	原 一男
製作総指揮	高丘季昭	原作	秋元松代
製作	山口一信		「かさぶた式部考」
撮影	栃沢正夫	衣裳協力	千代田きもの棟
照明	岩木保夫	製作	西友
美術	木村威夫	配給	東宝
音楽	松村禎三		
録音	久保田幸雄		
編集	井上 治		
製作補	大場正弘		



式部物語

(キャスト)

大友豊市	奥田瑛二	宇智子	安孫子里香
		ふじ	根岸明美
大友てるえ	原田美枝子	初旅の男	内藤武敏
うめ	新橋耐子	大友伊佐	香川京子
夢え助	杉本哲太	智修尼	岸恵子

10月上旬ロードショー公開！  
特別前売券好評発売中

一般1,300円 (当日窓口 1,600円の処)  
学生1,100円 (当日窓口大・高1,300円)  
中学 1,200円の処

有楽町 東宝映画街  
日比谷みゆき座  
03(591)5357